



知っていますか？ シックスクール

子どもの環境を考える親の会
連絡先 0134(25)1182 or(27)5100
e-mail sato-jin@star.odn.ne.jp
No.83 2011年2月
会報は皆さんの会費によって作られています。
郵便振替 02760-4-77134 1100円/年



チョコから見えてくるもの…児童労働・環境破壊 バレンタインデーには“いっしょにチョコレボ”しませんか！



日本に輸入されるカカオの8割は、ガーナなどの西アフリカの国々で栽培されています。国際熱帯農業研究所が、ガーナなど4カ国約1500の農場を調査した結果、何十万もの子どもたちがカカオ農場で危険な仕事に携わっていることが明らかになりました。

カカオ農場で働く64%が14歳以下の子どもで40%は女の子。子どもたちは一日12時間以上働かされ、学校へも行けず、多くはチョコレートを見ることも食べたこともないといえます。重労働による筋骨格の損傷、皮膚がん、防護用具なしで殺虫剤の使用による中毒など健康上の問題も多数。

自然な森の中では、カカオは農薬を使う必要はなく、森本来の土の栄養で実をつけることができます。しかし、近代農法では、生態系のバランスが崩れることで、カカオが病気になりやすくなり、害虫もつきやすくなるため農薬や化学肥料を使用しています。その結果、人はもちろん、地下水や大地を汚染し、生き物のすみかが失われてきているのです。

私たちは、このような事実を知ってチョコレートを食べているでしょうか。「いっしょにチョコレボ！」というキャンペーンを知っていますか。フェアトレードやオーガニックの「人と地球にやさしいチョコ」を積極的に選んでくれる消費者を増やしていこうというアクションです。

企業商戦にのる訳ではありませんが、バレンタインデーにチョコを通じて世界の人々の暮らしについて考えてみる、人と地球にやさしいチョコを買ってみるといのはいかがでしょうか。値段はちょっと高めですが、安全素材で子どもにも安心です。下記HPで通販できます。

<チョコレボ・アライアンス 2011 呼びかけ団体>株式会社インヴォルブ/チョコレボ実行委員会 /特定非営利活動法人 ACE /スローウォーターカフェ有限公司 /フェアトレード カンパニー株式会社 /特定非営利活動法人 フェアトレード・ラベル・ジャパン



子宮頸がんワクチンで失神児多発！？



ワクチンのあまりの痛さに自律神経のバランスが崩れ、転倒したり、失神したりする児童生徒が続出したと厚生労働省が発表しました。昨年12月以降、推計40万人が接種を受け、10月末の副作用の報告は81人。他の副作用としては、頭痛、発熱など。

栃木県大田原市では、12月中旬まで学校内で集団接種をしていました。しかし、厚労省は「副作用の恐れがあるので、特に小学生は保護者の同伴が必要。予防接種法は個別接種を原則としており、集団接種は勧めていない」としています。そのため市は「保護者全員を学校に集めるのは難しい」と判断し、集団接種を中止したそうです。同市は今年度、全額公費負担で、全国で初めて小学校で集団接種を始め、1回目の接種率が98.5%、2回目が97.9%だったといえます。保護者は、公費で全額負担されたので子どもたちに接種させたのでしょうか、まだ謎の多いこのワクチン。良かったのかどうか…。

読売新聞他



またもや泊原発(北海道)で作業員被ばく事故



泊原発の原子炉補助建屋で作業していた21歳の下請け会社作業員が、冷却水の異物を除去するフィルター交換中に、放射性物質を含んだ粉塵を吸い込み被ばくしました。防護マスク未使用。昨年も作業中の50代の下請け会社作業員がマスク未使用で被ばくする事故があったばかり。昨年の事故現場にいたっては、本来放射能汚染の無い場所だったとのこと。

どちらの事故も体内被曝しているにもかかわらず、記事では健康に問題なしとしています。体内被ばくは、除染できる体外被ばくと影響が違い、被曝直後に異常がないからと安心できません。記者も北電の発表をそのまま書いているだけでは、お粗末。



放射線被ばく問題 「医療被ばく」から「脱原発」へ

—高木学校の取り組み—



キッカケ 高木学校が「医療被ばく」問題を取り上げるようになったキッカケは、英国の医学雑誌に日本の医療被ばくは世界で突出している、そのため年間約1万人が癌になるという計算が発表されたことだそうです。(被ばくが危険なのは遺伝子を傷つけるから。1回の被ばく線量は少しでも、受けるリスクは蓄積します)。ニュースが報道され、市民が不安を抱いても、国は何の対策も打ち出していません。

ネライ そこで、高木学校は、「市民版医療被ばく手帳」を発行し、さらに「受ける？ 受けない？ エックス線 CT 検査」を発行しました。被ばく手帳の狙いは、被ばく線量を記録することで、①なるべくムダな検査は受けないようにしてもらうこと。 ②市民がその手帳を使うことによって、医師やレントゲン技師など医療関係者にも被ばくのリスクを考えてもらいたいということ。この手帳はすでに8000部以上、冊子は7600部以上が販売・配布されているそうです。

ウラガワ 国や行政が一向に対策をとらないのは、「医療被ばく」と国のエネルギー政策とが密接な関係にあるからだそうです。推進側が、原子力エネルギーを利用するのに、市民が少しの放射線でもリスクがあるということに気づけば原子力政策の障害になる。だから、小中学校でも、医学部の教育でさえ少しの量なら放射線は安心・安全だと教える。その結果、市民はもちろん、ほとんどの医師が放射線のリスクを知らないのだといえます。

ソタエル 放射線被ばくが危険だということ、どうしたら人々に伝えられるか。レントゲンを受けたことのない人はいないので「医療被ばく」なら耳を傾けてくれるのではないかと。そう考えて、高木学校では「医療被ばく」問題に取り組んできました。是非、高木学校のHPへ訪問してみてください。

高木仁三郎没後10年のついでに崎山氏が話された内容(高木学校通信71に掲載)をまとめさせていただきました。



2010年 携帯電話電磁波による健康問題…



その1 中高生携帯電話使用で睡眠障害

08年から09年に、無作為に抽出した92校の中学生約4万人、80校の高校生約5万5千人を対象におこなった調査では、就寝前に毎日携帯電話を使うと、使わない学生に比べ睡眠障害リスクは約1.4倍になるそうです。これは、日本大学医学部の大井田隆教授(公衆衛生学)らのグループによる全国調査。調査では、就寝前に毎日携帯電話で通話やメールをする生徒は、そうでない生徒と比べて「入眠障害」や「中途覚醒(かくせい)」、「早朝覚醒」などの睡眠障害を発症するリスクが約1.4倍高いということです。日中の過度の眠気リスクは、毎日通話する学生で1.17倍、メールする学生は1.5倍高いそう。

その2 一日20分以上通話すると脳腫瘍のリスクが3倍

携帯電話の人への影響を調べた総務省出資の最新研究で、1日20分以上通話する人たちで脳腫瘍のリスクが3倍になるという結果が昨年10月に海外の学術誌『Bio Electro Magnetics』で発表されました。東京女子医科大学の山口直人教授のグループが行ったもので、人を対象にして携帯電話の使用と脳腫瘍の一つである聴神経腫との関連を調べた疫学研究です。

しかし、総務省は「国内向け発表の予定はない」としており、国民には知らされていません。今までも日本のマスコミが巨大な広告主である携帯電話のリスクを報道することはなく、都合の悪い研究結果を無視するならば、「兜研究」※の二の舞です。NTT 労組の政治団体から民主党議員へ多額の政治献金が流れているうちは総務省に疫学調査を、任せても意味がないかもしれません。
※高圧線の電磁場と小児白血病の関連に関する日本での唯一の本格的な疫学調査。文部科学省の「評価」によって隠蔽、葬られた。

その3 妊娠中の携帯電話使用で子どもが行動障害

妊娠中に携帯電話を定期的に使っていると、行動障害の子どもが産まれる可能性が高くなるという調査結果が、英医学専門誌「Journal of Epidemiology and Community Health」に発表されました。子どもが小さい時から携帯電話を使用し始めた場合、そのリスクはさらに高まるそうです。妊娠中、出産後ともに携帯電話を使用していた母親から産まれた子どもでは、行動障害を持つ確率が50%も高くなり、妊娠中にのみ携帯電話を使用した場合は40%高くなり、出産後にのみ使用した場合は20%まで減少したそうです。研究者らは、携帯電話と問題行動を起こす子どもに直接的な因果関係があるとは断定できないとしながらも、「(子どもを)早い段階から携帯電話にさらすことにはリスクを伴う可能性がある」と警鐘を鳴らしています。